

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 NPO 法人 可児市国際交流協会

1. 事業名称

可児市多文化人材育成推進事業

2. 事業の目的

可児市の現状として、南米系やフィリピンのニューカマーの人たちの在日年数が長期化している。その中で、日本語の習得がまだまだの人もあるが、定住・永住化が進む中、地域社会に入りたいと思っている人が多い反面、日本語教室へ参加する人は多くない。また、母国でスキルを持っていても、それを活用できないでいる。生活者として、ある程度日本語を習得し、日本人とやりとりもできる外国人は、さらなるステップアップで日本に関する社会文化知識を身に付け、コミュニケーション能力を高めたいと考えている。また、子育て中である親にとっては、地域社会へ参画したい意欲はあるものの、時間や行動に制限され、断念したり、また幼少の頃から日本の公立校に通い、日本人と同様に教育を受けながらも、外国籍というだけで、ネイティブレベルの日本語が活かされず、卒業後安定した雇用に就けない人たちも多くなる。地域多文化人材育成委員会を設置し、そこで、それはなぜなのかを追求し、様々な分野の方々に共同参画してもらい、就職につなげる地域日本語教育の仕組みづくりを目指し、次世代を担う外国人を地域人材として、育成していく。

3. 事業内容の概要

商工会議所、工業団地、自治会、市役所人事課、市教育委員会、外国籍の生徒が多く在籍する公立高等学校で構成された地域多文化人材育成推進委員会を設置し、地域企業が求める人材、また地域社会とどう関わればいいのか、意見交換を行う。それを踏まえて、企業・行政・外国人スタッフを講師に招き、オフィスマナー・子育てに必要な日本語教室へとつなげる。可児市の多様な分野の方々を巻き込みながら、「人材育成」を日本語の切り口として、行っていく、最後に可児市の日本語教育体制整備の検証として、シンポジウムを開催した。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間	場所	出席者	議題	検討内容
1	7月2日(月) 13:00~15:45	2.75時間	可児市 多文化共生 センター フレビア	米勢 治子 田室 寿見子 桑山 理子 池辺 恭子 各務 眞弓 近藤 利恵	・当事業プログラムへ申請した経緯 ・取組内容説明 ・今後スケジュールの確認 ・当プログラムの運営組織の説明	・生活者として、日本で暮らすには、行きつくところは、「就職」だと考えた。しかし、様々な理由で、安定した雇用には就けない現状がある。「地域多文化人材育成推進委員会」を設置して、外国人の雇用状況や人材について、運営委員と推進委員が双方で情報共有し、共同参画することで、就職につなげる地域日本語教育を目指して、次世代を担う外国人を育成したいと考えたからであることを説明。 ・申請予算額から減額の差額分について取組構成をどうするか。 ・ステップ1の「地域多文化人材育成委員会」についての在り方 ・ステップ2は、講義/オフィスナー/子育てに必要な日本語の3本立てにしかみえない。私たちは、プログラム(B)で採択されていること、関係機関等の連携・協力を推進する検討体制の整備であることを忘れてはならない。どう整備していくか。 ・オフィスマナーの組み立て方。
2	10月16日(火) 13:30~15:30	2時間	可児市 多文化共生 センター フレビア	米勢 治子 田室 寿見子 各務 眞弓 近藤 利恵	・実績報告 ・進捗状況報告 ・日程確認	・第1回人材育成推進委員会(可児工業団地管理センター副理事長)外国人の雇用について中小企業における雇用についてヒアリング状況を報告 ・オフィスマナー講義 第1~3回講義内容、受講者の反応、感想を報告。

回数	開催日時	時間	場所	出席者	議題	検討内容
3	12月17日(月) 13:30~15:45	2.25時間	可児市 多文化共生 センター フレビア	小島 祥美 米勢 治子 田室 寿見子 桑山 理子 池辺 恭子 各務 眞弓 近藤 利恵	・実績報告 ・進捗状況報告 ・取組の問題点・課題 ・シボジウムについて ・来年度申請について	・第2回、第3回人材育成推進委員会 (可児市役所秘書課) (可児商工会青年部) 外国人の雇用について 面接時の立ち振る舞い 社会人としての心得 などヒアリング内容を報告 ・オフィスマナー講座 MICH I の取り組み振り返り ・子育ての日本語 講義・講座を実施するにあたって、 関連機関と関係をもつことができた。 ・シンポジウムの対象者について 何を議論していくか。 ・来年度の申請について 今年度の反省を踏まえて、次へと つなげていく。
4	2013年 2月12日(火) 10:00~12:30	2.5時間	可児市 多文化共生 センター フレビア	小島 祥美 米勢 治子 田室 寿見子 桑山 理子 栗野 瞳 各務 眞弓 近藤 利恵	・実績報告 ・シボジウムについて	・子育ての日本語(最終回) 学校関係者の多数参加はよかった。 フィリピン人の受講者がゼロだった。 もっと、集客方法について見直さ なければならない。 ・シンポジウムの構成案について 登壇者、どんなテーマで議論して いくか、検討、確認する。 可児市の課題を見直し、当日へと つなげていく。

【写真】



第3回 運営委員会の様子



第4回 運営委員会の様子

5. 取組についての報告

○取組1： 地域多文化人材育成推進委員会

(1) 体制整備に向けた取組の目標：

商工会議所、工業団地、自治会、市役所人事課、市教育委員会、外国籍の生徒が多く在籍する公立高等学校のメンバーで委員会を構成し、地域企業が求める人材、また、地域社会とどう関わればいいのか、意見交換を行う。

今年度は、第1年目として、体制整備のうち、関係づくりを目指し、当事業の目的や主旨を理解していただき、本事業でどんな学習してきた外国人なのかを把握してもらう。

(2) 取組内容：

ある程度、日本語が話せる外国人にとって、次に課題としていることは、「より日本人らしく」「日本人に失礼のないように」である。しかし、それを学ぶ教室もなく、また、就職後、外国人に対して、オフィスマナーを中心とした新人教育を実施している企業は、多くない。それは、2～3年で帰国されると、人材育成への投資が無駄になることも背景にある。定住が採用条件となれば、結局、派遣社員や工場に就職せざるを得ず、安定した仕事が確保しにくい。しかし、入社時点で、教育が身につけていけば、企業側にとっても、雇用の幅が広がる。どんな人材が存在しているのか、どんな人材を求めているのかを 当委員会で、相互に理解し、それをステップに、日本語の講義・講座へとつなげ、コミュニケーション能力を支えていく日本語能力に関する社会文化を学習する。

(3) 対象者：（委員会参加者）

（第1回）可児工業団地管理センター副理事長 豊島氏

運営委員 田室、各務、近藤

（第2回）可児市役所総務部秘書課課長 前田氏、秘書課 水野氏

運営委員 小島、田室、池辺、各務、近藤

（第3回）可児商工会青年部 岡田氏、田上氏、安江氏

運営委員 小島、田室、各務、近藤

（第4回）KYB 株式会社人事課 後藤氏

運営委員 田室、池辺、各務、近藤

（第5回）可児市役所地域振興課課長 坪内氏

運営委員 田室、各務、近藤

(4) 参加者の募集方法

運営委員会で、推進委員の対象者を分野別に選出、決定し、日程調整をする。

運営委員でもあり、当協会事務局長が代表で打診する。

(5) 参加者の総数 7 人
(出身・国籍別内訳 日本人)

(6) 開催時間数(回数) 11.25 時間 (全 5 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	参加人数	国籍	取組のテーマ	概 要
1	7月18日(水) 11:45~15:15	3.5時間	4人	日本	<企業が求める人材について> ・当プログラム(B)の主旨説明 ・講義・講座の内容詳細説明 ・意見交換	・講義・講座を組み立てていくにあたって、中小企業にも焦点をあてるようにする。 ・T社における新卒の採用状況。 ・外国人と日本人の(採用・雇用)受け入れ方の違いについて。 ・どう演劇手法をどのように取り入れていくか検討。
2	10月19日(金) 13:30~15:15	1.75時間	7人	日本	<公務員を目指す外国人への対応について> ・外国人の採用条件 ・語学以外の強み ・面接時の立ち振る舞い ・社会人としての心得 ・意見交換	日本生まれ、日本育ちの子どもも増え、その子どもたちを地域社会でどう受け入れていくか。工場や派遣会社・企業に勤めるだけでなく、外国人にも“公務員”というチャンスはどの程度あるのか。公務員を目指す外国人への対応は何か。日本語支援をしていく中で、どのようにしていけばいいのか。本事業の取り組みとして、ビジネスマナーにどうつなげていけばいいか、検証するために、意見交換を行う。
3	10月19日(金) 19:00~21:00	2時間	7人	日本	<中小企業への就職について> ・外国人を雇用した時のこと ・今後どうやって職人として、育てていきたいか。 ・お客様の接し方 ・面接時の注意点 ・意見交換	地域には、どのような職種を求める外国人がいるのか。また、本事業の日本語教室でどのような日本語を支援しているのかを人材の確保につなげるために情報を提供する。

回数	開催日時	時間数	参加人数	国籍	取組のテーマ	概要
4	11月19日(月) 13:30~15:30	2時間	5人	日本	<外国人を多く受け入れている企業の課題について> ・外国人雇用について ・外国人が求めている日本語力について ・意見交換	幼少の頃から日本の公立校に通い、日本人と同様の教育を受け、ネイティブレベルの日本語力を持っていながらも、安定した職業に就けないのは、なぜか。外国人が不安定ではあるが、短期間で高収入が得られる派遣会社を選択するからなのか、それとも、やはり正社員で雇用してもらえない現実があるからなのか。地域の大企業であるK社の人事課で外国人雇用について、外国人の働きについて、社内の現状をヒアリングし、日本語教室にフィードバックする。
5	11月19日(月) 19:00~21:00	2時間	4人	日本	<まちづくり・人づくりの取組について> ・可児市が目指すまちづくりとは ・多文化共生	可児市の課題として、「言葉が使える」ことで、行政が考えるところは、まず「通訳」での雇用である。「通訳」は、ツールとして「言葉」が使われるのであって、ほとんど、その人の資質が問われる。 地域でどんな日本語教育が必要になるのか。行政が発想の転換を変えなければ、民間は変わらない。 人材育成という観点で、今一度、考えなければならない。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

外国人が労働力としてだけでなく、「人」として、認められる社会にするには、企業・行政に、まず働きかけをしなければならない。その関係づくりの第一歩として、地域で活躍されている方々に直接、生の意見をヒアリングした。

実績としては、個々にヒアリングする形となったが、当初のイメージは、個々が一同に集まり、会議形式にする予定であったが、そのような場合は、堅苦しくなり、言いたいことも言えない恐れがあると考え、運営委員のメンバーが、個々に歩み寄る形をとった。



第1回 推進委員会の様子



(9) 取組の目標の達成状況・成果

まずは、文化庁事業でこのような取組があるということを地域の企業、行政に説明することで、関心を示してもらうことができた。

人材育成事業とするならば、単年では、成り立たないこと、企業・行政・学校関係も巻き込み、継続的に取り組まなければいけないことを理解してもらい、具体的に何ができるのか。また、準備している教室が、「オフィスマナー講座」「子育ての日本語」であることを伝え、是非、「オフィスマナー講座」の面接時の指導に入ってくれるとの声が挙がった。また、外国人雇用について企業からヒアリングしたことで、“外国人”だからというより、“現代の若者”の甘さがあったことも知ることができた。社会人として足りないもの、それは、日本語力より、人の資質によるものなのかもしれないということも知らされた。

(10) 改善点について

中小企業、大企業、行政までヒアリングできたので、学校関係者にも歩み寄れるとよかった。外国籍の子どもが多く在籍する公立高等学校に話をすれば、将来性が見えやすい。子どもたちにも地域にいる自覚、生きていく力を養えるきっかけとなったであろう。来年度につなげていきたい。

○取組2：人材育成のための講義

(1) 体制整備に向けた取組の目標

自分の日本語能力の他に、人材として何が求められるのか。また、異文化理解も含めどのように自分をブラッシュアップしていけばいいのか糸口を見つけ、日本社会に順応できるさらなるステップにつなげる。学習者だけの一方通行ではなく、お互いに学習し、尊重し合うことで、地域活性化につなげていく。

- (2) 取組内容
取組1の「人材育成推進委員会」でのヒアリング事項を参照に、必要なテーマを掲げ、コミュニケーション能力を支えていく日本語能力に関する社会背景を学習する。
企業・行政、外国人スタッフから、様々な視点でご講義いただく。
- (3) 対象者
事務職を希望している外国人
就職を控えている日本人、及びマナーを学びたい人
各企業人事担当者
- (4) 参加者の募集方法
可児市国際交流協会 ホームページ、メルマガ 掲載
チラシ設置
- (5) <第1回> 参加者の総数 9 人
(出身・国籍別内訳 日本：2人、フィリピン：2人、ブラジル：4人、中国1人)
<第2回> 参加者の総数 9 人
(出身・国籍別内訳 日本：5人、フィリピン：2人、ブラジル：1人、中国1人)
<第3回> 参加者の総数 6 人
(出身・国籍別内訳 日本：1人、ブラジル：5人)
- (6) 開催時間数(回数) 7.75 時間 (全 3 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍	取組のテーマ	概要
1	8月26日(日) 14:00~16:00	2時間	9人	日本 2人 フィリピン 2人 ブラジル 4人 中国 1人	企業が求める人材 (求められる人材)	・アメリカの工場での話 ・仕事の前に信頼関係 ・コミュニケーションには言葉が必要 ・コミュニケーションを支えるもの 尊敬・信頼・感謝 大切である。 ・私たちを取り巻く環境(世界と日本) ・日本の企業 企業の種類、企業数、企業とは ・企業の運営 ・会社の組織 ・求められる能力とは ・採用面接で評価されること ・コミュニケーションスキル ・仕事の質と量 ・外国人労働者に求めるもの ・企業の今後の動向 今後求められること ・グローバルな人材 ・企業に求めること ・企業が与えられるもの ・人生で最も大切だと思うもの ・これからどうしたらよいか。
2	9月9日(日) 14:00~17:00	3時間	9人	日本 5人 フィリピン 2人 ブラジル 1人 中国 1人	日本のオフィスで働く ということ ～外国人職員の視点 から I ～	・オフィスで働くために服装、身だしなみ ・職場での挨拶用語 ・電話の受け答え ・書類の扱い方 ・時間の考え方 ・行政機関独特の文化 ・日本の職場の独特の文化 ・多文化な職場で共に働くために 外国人職員に求められること 日本人職員に求められること

3	9月22日(日) 14:00~16:45	2.75時間	6人	日本 1人 ブラジル 5人	日本のオフィスで働く ということ ～外国人職員の視点 からⅡ～	・外国ではo kなことでも日本ではよくないこと。 ・オフィスマナーについて ・外国人の立場から

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組の流れとして、取組2の講義を聴講した受講者が、取組3のオフィスマナー講座に臨むという形。

第1回目の反省を受け、第2,3回目は、講義の後、座談会のように、参加者が意見交換するような形をとった。



第1回 人材育成のための講義の様子

(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本語のレベルは、上級者を想定していたため、通訳はつけなかった。

<アンケート結果より>

〔第1回目〕

- ・会社がどんな人材を求めているか、少し分かる気がしました。
これからの自分自身に役立つと思いました。
- ・企業で働けることが、そんな簡単なことではないことが分かりました。
コミュニケーションができるなら、働けるだろうと今まで思っていたが、
今日、参加して、それだけでは足りないということが分かりました。
- ・外国人は、日本で生活するなら、日本人とほぼ同様頑張らなければならない。
日本語ができない人のためにも考えていかなければいけないと思います。
- ・外国人だけでなく、会社の上司や社員、一緒に働く人たちも協力すること、外国人も
ルールを守らないとお互いうまくいかない。ということが分かった。

〔第2回目〕

- ・すごく細かいことで、上司に怒られたり、服装のこともかなり大変なことだと初めて
知りました。

- ・外国人の目線で日本の職場がどう見えるのかを知ることができて、興味深かった。日本人が職場に外国人を受け入れる準備も一緒に働くうえで心がけることなど、学ぶことができた。
- ・「決して、日本人のようなやり方をマネしない」という発言が、一番印象に残りました。自分らしく、であることの大切さがよく伝わりました。

〔第3回目〕

- ・一番大切だと思ったのは、「自分からやる」ということと努力することです。
- ・日本人にとって、当たり前を感じることに疑問を持っている点を知れて新鮮だった。
- ・外国人として、悩んでいたこと、困っていたことが、国籍に関係ないということが分かりました。

(10) 改善点について

受講者が予想以上に少なかった。日本人の就職活動中の人たちにうまく、展開出来たらよかった。
 せっかくなので講義をしてくださっているのに、もったいない。どう告知していくか、今後の課題である。

○取組3：人材育成のための オフィスマナー講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標：

現在、中小企業において、就職後のオフィスマナーを中心とした新人教育は、日本人も含め、行っているところは非常に少ない。

ましてや、外国人には、オフィスマナーができる期待すらしていない。ところが、実際、外国人は、日本人同等のマナーを身に付ければ、職場環境にスムーズに入れると考えていることが多い。

日本人独特のマナーを習得することにより、仕事をする上でのコミュニケーション能力も高まる。講座では、自国では良くて日本のマナーだとどうしてダメなのか。等、文化比較しながら、異文化をしっかりと、理解し学習していく。

この講座を受講した学習者を人材育成推進委員会につなげ、「人材」として、提供し、今後の、採用検討の一つに加えていただく。

(2) 取組内容

- ・日本の企業で製造業以外で働きたい人に対して(日本人も含む)、働く際に必要なビジネスマナーを学んでもらう。
- ・職場の人たちとのコミュニケーションを円滑にするための日常生活でのマナーを学んでもらう。

・外国人、日本人それぞれに文化の違いを感じてもらう。

(3) 対象者

日本の企業で製造業以外で働きたい人、日本の日常生活のマナーを知りたい人、
多文化共生に興味のある人(外国人・日本人ともに)

(4) 参加者の募集方法

チラシを作成(ポルトガル語・英語・日本語)、多文化共生センターフレビアに設置するとともに、
近隣の工場や輸入食材店の前で配布。演劇ユニット MICHI の Facebook に情報を掲示。

(5) 参加者の総数 20 人

(出身・国籍別内訳

ブラジル 9 人、中国 2 人、フィリピン 1 人、ベトナム 1 人、日本 7 人)

(6) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 5 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要	講師 又は 指導 者数	講師又は指導者名	補助者数
1	平成24年10月28日 10:00～12:00	2時間	多文化 共生センター フレビア 研修室	8人	ブラジル3 中国1 フィリピン1 日本3	社会人としてのマナー	・各国のあいさつを紹介しながら 日本のあいさつ「おじぎ」を 紹介・実践しながらお互いに 心地のよいあいさつを考える。 ・日本のマナーの基本「上下関係」 について考え、敬語や席順を 紹介する。	6名	田室寿見子 ヒグト・ヴァネッサ・クリ スチーニ 住吉エリオ洋一 山田久子 多田美保子 タケダ・ダニエル	0名
2	平成24年11月4日 10:00～12:00	2時間	多文化 共生センター フレビア 研修室	3人	ブラジル2 日本1	職場のルール	・職場での時間や相手に則した あいさつ(おじぎと言葉)の 使い分けを考え、実践する。 ・職場に適した洋服について MICHIのメンバーが演ずる 芝居(よい例・悪い例)を観て考える。	5名	田室寿見子 ヒグト・ヴァネッサ・クリ スチーニ 住吉エリオ洋一 山田久子 多田美保子 佐藤美佳	0名
3	平成24年11月18日 10:00～12:00	2時間	多文化 共生センター フレビア 研修室	7人	ブラジル2 中国1 ベトナム1 日本3	話し方とふるまい	・職場でのあいさつを復習する。 ・お客様との会議を想定し、 会議室からエレベータ・車での 移動、レストランでの食卓までの 席次を参加者に上司・お客様などの 役割を演じてもらいながら実践する。 ・日本人の家に訪問する時や 日本の食事のマナーをMICHIメンバーが 演ずる芝居(よい例、悪い例)を 観ながら考える。	5名	田室寿見子 ヒグト・ヴァネッサ・クリ スチーニ 住吉エリオ洋一 山田久子 ノルベルト・シマダ・ドカ ルモ	0名
4	平成24年11月25日 10:00～12:00	2時間	多文化 共生センター フレビア 研修室	13人	ブラジル6 中国2 フィリピン1 ベトナム1 日本3 12	名刺交換と電話の対応	・参加者が自分のやりたい職業で 名刺を作成、名刺交換の方法を 紹介・実践する。 ・職場での電話のかけ方、受け方を MICHIのメンバーが演ずる芝居 (よい例・悪い例)を観ながら 紹介・実践した。	4名	田室寿見子 ヒグト・ヴァネッサ・クリ スチーニ 住吉エリオ洋一 山田久子	0名

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

・講座で伝えたいことをゲームや芝居の中に盛り込むことで、参加者の日本語能力に関わらず参加、体験することができるプログラムになっている。

・「あいさつゲーム」では、日本のあいさつのひとつである「おじぎ」について、相手によっておじぎする角度が違ってくることを紹介。その後、参加者を3つのグループ(お客様・部長・平社員)に分け、フロア内を歩きながらすれ違う相手に合わせて「おじぎ」をすることを実施・体験してもらいました。

・指導者(演劇ユニット MICHU)が職場や家庭でのいろいろな場面をよい例・悪い例を織り交ぜて芝居をし、それを参加者がみて、参加者自身にどんな行為が良いと感じるのか、悪いと感じるのかを考えてもらい、その後日本のマナーと照らし合わず事で文化の違いを感じ、また日本のマナーを習得するようにしました。



母国のあいさつの仕方を紹介



あいさつゲーム



名刺交換の練習



電話応対の練習



タクシーや車の乗車時の上座・下座について



面接の練習

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・参加者のアンケートからは、「日本の文化やマナーを知ることができた」「あいさつなど以前から知っていたマナーも使うタイミングがわからず使えなかったが、今回使うタイミングを知り職場で活用した。その結果、職場の人とのコミュニケーションがとれるようになった。」などの声をもらった。
- ・指導者である演劇ユニット MICHU のメンバーについても改めて文化の違いやビジネスマナーを学ぶことが出来た。さらに、プログラムを新しく作成したことで、ワークショップファシリテータとして参加者にとって何が必要なのか、どう伝えればいいのかを学ぶことが出来た。

(10) 改善点について

- ・参加者の就業希望先(企業の事務職なのか、サービス業なのか、アルバイトなのか)により求めている情報も違ってくるので参加者を絞り込むことも必要だと感じた。
- ・参加者が参加しやすい日程の設定、情報の伝達方法について検討する必要がある。
- ・日本語能力が高い外国人でも「オフィスマナー」と聞くと躊躇してしまう人が多いので、日本の企業で製造業以外で働くことが出来るイメージを持てるようなプレ講座を開催したり、講座のタイトルを変えるなど参加しやすい雰囲気をつくることも必要だと感じた。

○取組 4: 子育てに必要な日本語 講義・講座・日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

子育ての日本語教室として、子どもを通して親が関わる各分野の方々とともに日本語を学び、子育て中の地域外国人のバックアップ体制を整備する。

(2) 取組内容

- ① 病院では的確な対応が求められるため、地域の小児科医を講師として招き、ご講義いただく。
- ② ①での講義を踏まえて、親として必要な「病院のことば」を学習する。
- ③ 地域の保育園園長先生を招き、園での生活にまつわる言葉をご講義いただく。

- 15

参加者: 5 名 内訳ブラジル(4)、ペルー(1)

担当者: 保育士 1 名、日本語教師 2 名、サポーター 2 名

前回の保育園園長先生の講義でお話のあった外国籍の子供たちが戸惑うことや難しいと感じることを参考にして内容を検討した教材検討委員会での資料や教材を基に、保育士による指導、日本語教師による言葉の説明を行った。

活動目標: 朝の送りからの一日の保育園での生活を再現し、子供が聞いたり、話したりする園の日本語や生活習慣を親が体験することで、それらを理解し、今後の子育てに活かす。

活動内容:

- ・朝の申し送り(保護者(参加者)⇒保育士)
- ・朝の挨拶(保育士⇒保護者(参加者))
- ・工作 廃材を使ったクリスマスツリーを作る
- ・給食 準備から後片付けまで
- ・連絡帳を受け取る
- ・帰りのあいさつ

学習内容

- ① 保護者として、保育士に伝えておかなければならない情報を理解し、伝えることができるようになる
- ② 工作で使用する道具の名前や保育士の指示を理解することができる。園で一般的に使われる指示の出し方を知ることで家庭でも活用できる
- ③ 給食(炊き込みご飯、お味噌汁、いなごの佃煮)で使用する道具や食べ物の名前を知り、お椀の持ち方、箸の使い方などを学習する。また、準備や片付けも各自が園のルールで行い、子供の園生活を学ぶ
- ④ 連絡帳に書かれていることを理解する

活動後の感想

- ・ 受講者と指導者・サポーターが同じ目線でよかった
- ・ みんなが楽しみながら、共通の話題で取り組めてよかった
- ・ 受講者からの質問で、途中トイレに行きたいなど、体調不良を訴えたいときに子供がどんな言葉で伝えたらいいのかという質問が出た。おしっこ、おなかいたい、トイレ行きたいなど具体的な表現をその場で教えられてよかった。
- ・ 大人がしゃべる日本語と先生が話す日本語は違うことが実際にやってみてよくわかった。長い針、短い針など。
- ・ 茶碗とお椀の位置などの間違い、お椀のすすり方など実際にやってみないとわからないことがよくわかり、正しい作法がよくわかった。
- ・ はしの持ち方がわからないママも多かった

使用教材(オリジナル)

- ・園の生活 先生とこどもの会話
- ・家庭掲示用 園でつかうことば集

学習風景



活動 7 外国人の子どもの教育における課題

講師 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子

実施日時:2013 年 2 月 2 日 10:00~12:00 2 時間

参加者:15 名 内訳 ブラジル(7)、日本(7)、中国(1)

担当者:日本語教師 1 名、サポーター 2 名

講義内容:日本の教育制度や学校文化を母国と比べながら、複数言語で生活する子供たちの大切なこと。また、外国人保護者の立場から見た、日本の教育制度や学校生活に対する彼らの戸惑いや不安なことなどをお話頂いた。また、学校関係者や家庭でも活用できる教材を実際に HP を見ながら紹介頂いた。(別紙参照:⑦講義資料)

講義後の感想

・Earth Babies や FREVIA がこのような活動をしているのは、とても大事なことだと思う。しかし、他の地域では、情報不足や誤解されていることがあります。仕事の為に他の講座に参加できなかったが、できれば週末や平日の夜に開催してほしい。外国籍の人々の理解も必要だが、特に日本人の意識も高めることも大切なことだ。企業(派遣会社、コミュニティ)で働いている親の子供が日本の未来である。だから、子供たちはとても大切だと思いました。(ポ語)

- ・大変良かった。私たちは現在のことしか考えていないので、今後、子供たちの将来について考えたほうが良いと思いました。(ポ語)
- ・大変良かった。日本とブラジルの教育の違いについてわかった。両方の国を行き来することが子供に影響することがわかりました。(ポ語)
- ・とてもよかった。もっとこのような講座があると子供たちの教育についてわからない事を解決できると思います(ポ語)
- ・参加してよかった。自分の教育についてわからないことがあったので、参加して解決した。とくに言語については、分けて使う(家では母語を)、日本語と母語を一文に混ぜて使わないことがわかった。日本の学校について少しは知っていたが、今日はもっと詳しく知ることができました。(ポ語)
- ・母語を子供にどうやって教えたほうが言いか、ずっと悩んでいたが、先生のアドバイスを受けてすぐ納得しました。早速実践しようと思っています。本当にありがとうございました。(中国)
- ・まずは違いを認識してから、接し語り合うことの大切さが理解できました。
- ・先生が常に+の言葉を選んで、話されているのが素晴らしい。ダブルルーツの大切さが良くわかりました。
- ・参考資料をご用意して頂いたり、情報(HP)なども頂き助かりました。丁寧なご準備ありがとうございました。
- ・母語の大切さ、ことばかけ上の留意点を学ぶことができました。大いに参考にさせていただきます。

講義風景



(9) 取組の目標の達成状況・成果

子育ての日本語教室として、子どもを通して親が関わる各分野の方々とともに日本語を学び、子育て中の地域外国人のバックアップ体制を整備することを目標に活動を行った。

結果、小児科医、保育園、こども支援センター、市役所こども課、教育研究所など、こどもを取り巻く地域の関係者の方々から、この活動への賛同を頂き、講師依頼を快諾いただいたり、情報提供を頂いたりバックアップ体制の関係作りができた点では目標を達成できたと考える。また、実施団体の Earth Babies メンバーがそれぞれの特技(看護師、保育士、料理)などを活かし、同じ子育てをする親として、交流しながら活動に全面的に

参加できたことも大きな成果と考える。

しかし、日本語教室としては、学習者の数が少なく、改善が必要。

(10) 改善点について

・日本語教室の時間

教科書を使った学習方法ではなく、体験を通じて学ぶ為、時間が短かった。

・参加者数の増加

子育て中の親をターゲットとし、平日に開催した為、対象者が限られた。

今後は週末に開催できるように、実施体制を検討する

・参加国籍の偏り

フィリピンの参加者がいなかった。チラシ、声かけを行ったが参加までは繋がらず、フィリピンコミュニティの代表者の協力を仰いだり、それぞれの国の性格にあった告知方法を使ったやり方を模索すべき。

・募集媒体

参加者が活動を知った媒体は、Earth Babies メンバーからの声かけ、FREVIEW 設置チラシ、園へのチラシ配布、facebook など多岐にわたっている。活動中に媒体を増やして告知に力を入れたが、今後も同様にさまざまな媒体を使って募集できるようにはじめから準備すべき

○取組5:子育てに必要な日本語 教材検討

(1) 体制整備に向けた取組の目標

教材検討委員会を開催し、今後、主体的に使えるような教材を今回の講義・講座をステップに検討していく。

(2) 取組内容

文化庁発刊の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック教材例集をはじめさまざまな教材を参考にしながら、地域のニーズに沿ったオリジナルの教材を検討した

(3) 対象者

子育てに必要な日本語に関わっているスタッフ

(4) 参加者の募集方法

募集はしていない

(5) 参加者の総数 7 人

(出身・国籍別内訳 日本 7人)

(6) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 6 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	指導概要
1	2012年11月23日 13:00～15:00	2時間	FREYA	6名	日本(6)	お医者さんが知りたいこと	指導資料を参考にし、現職小児科看護婦にアドバイスをもらいながら、使用するテキストへ情報を追加し、補助教材を作成、検討
2	2012年11月23日 13:00～15:00	2時間	FREYA	5名	日本(5)	病院のことば	使用した補助教材修正や使用テキストの適宜を検討
3	2012年12月13日 13:00～15:00	2時間	FREYA	5名	日本(5)	幼稚園・保育園での生活	指導資料を参考にし、保育士にアドバイスをもらいながら、使用するテキストへ情報を追加し、補助教材を作成、検討
4	2012年12月20日 13:00～15:00	2時間	FREYA	5名	日本(5)	園のことば	使用した補助教材修正や使用テキストの適宜を検討
5	2013年1月17日 13:00～15:00	2時間	FREYA	6名	日本(6)	子どもの成長・ことばの発達	指導資料を参考にし、保育士にアドバイスをもらいながら、参考資料、教材を検討
6	2013年1月24日 13:00～15:00	2時間	FREYA	4名	日本(4)	子どもにつかうことば	使用した補助教材修正や使用テキストの適宜を検討

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動 1 お医者さんが知りたいこと

実施日時:2012 年 11 月 23 日 13:00～15:00 2 時間

参加者:6 名

内容:午前中に行われた小児科 平田医師の講義内容を参考に、Earth Babies メンバーの長濱(小児科病棟看護婦)にアドバイスを仰ぎながら、教材を検討、資料や副教材を作成した。

抜粋元教材

- ・ 「生活者としての外国人」 発行：文化庁
- ・ 「子育て問診会話集」 発行：財団法人 岩手県国際交流協会
- ・ みんなの日本語シリーズ(初級) 発行：スリーエーネットワーク

参考資料

- ・ 多言語問診票 (岐阜社会保険病院使用)
- ・ 参考資料平田先生資料「受診判断チャート」

作成資料、持ち寄った素材

- ・ 発疹・湿疹の写真
- ・ 子育て問診会話集へ各症状問診の際に必ず聞かれる項目を追加
- ・ 症状のカード
- ・ 体の部位の絵
- ・ 異なる形状の薬(粉、錠剤、シロップ、座薬)
- ・ 薬袋
- ・ 薬の説明書

活動 3 幼稚園・保育園での生活

実施日時:2012 年 12 月 13 日 13:00～15:00 2 時間

参加者:5 名

内容:午前中に行われた可児市立土田保育園 小池園長先生の講義内容を参考に、Earth Babies メンバーの 山口(保育士)にアドバイスを仰ぎながら、教材を検討、資料や副教材を作成した。

抜粋元教材

- ・ 「生活者としての外国人」 発行：文化庁
- ・ 「子育て問診会話集」 発行：財団法人 岩手県国際交流協会
- ・ みんなの日本語シリーズ（初級）発行：スリーエーネットワーク
- ・ すぐに使える!6 か国語保育の会話&文書便利帳—中国語/韓国語/ポルトガル語/スペイン語/フィリピン語/英語 著者：外国人の子どもの保育研究会
- ・ 泣かないで～8カ国の保育日常会話集～制作：神戸アジア保育交流会

参考資料

- ・ 外国人の子どもの保育—親たちの要望と保育者の対応の実態 著者：大場 幸夫, et al
- ・ 多文化子育て調査報告書 発行：多文化子育てネットワーク

URL： http://www.tabunkakosodate.net/japanese/report/pdf/report_201211s.pdf

作成資料、持ち寄った素材

- ・ 園の生活 先生とこどもの会話
- ・ 家庭掲示用 園でつかうことば集

【工作】クリスマスツリー

廃材（牛乳パック、トイレットペーパーの芯）

材料（画用紙、綿、折り紙）

文房具（はさみ、のり）

【給食】炊き込みご飯、味噌汁

食器（給食トレイ、ご飯茶碗、おわん、箸、補助箸）

食材（炊き込みご飯、味噌汁）



(9) 取組の目標の達成状況・成果

教材検討委員会を開催し、今後、主体的に使えるような教材を今回の講義・講座をステップに検討することを目標に実施した。結果それぞれのテーマの専門化（看護師、保育

士)へヒヤリングをしながら、より現場で使われている言葉や状況を選び、教材からの抜粋や副教材、資料の作成ができた。しかし、一般にあるに教材は、自分自身のことを話すものが多く、子供のことを伝える会話や子供についての他者との会話が盛り込まれた教材が非常に少なく、子育てに関わる学習者用の教材の必要性を感じた。本取組は教材作成が目的ではなく、各テーマに沿った子育てに関わる資料や教材を取りまとめて、今後の日本語教室にも活用できるものを検討する予定であったが、参考に来る資料が乏しく、オリジナル教材や資料を作成するも、日本語教育の専門家が作成していない為、今後に活用するには更なる検討が必要である。

(10) 改善点について

日本語教材開発経験者の参加が必要だった。

○取組6: シンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標:

地域人材としての外国人の日本語指導について、当事業で取り組んだ内容を地域の企業や住民に知ってもらい、また意見を聞きながら、今後の取り組みへとつなげる。

(2) 取組内容:

各取組の報告と、日本語教育専門の立場からの講評
当取組に関わった人たちのパネルディスカッション

(3) 対象者:

地域住民、地域企業、行政、学校関係者、日本語教育関係者、各取組の受講者

(4) 参加者の募集方法:

市役所チラシ設置、学校関係者会議でのチラシ配布、協会事業講座でのチラシ配布、協会のホームページ、メルマガ、Facebook 掲載、チラシ設置

(5) 参加者の総数 36 人

(出身・国籍別内訳 日本人 28 人、ブラジル 7 人、中国 1 人)

(6) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍	取組のテーマ	概要
1	2013年 3月16日(土) 13:00~17:00	4時間	36人	日本人28人 ブラジル 7人 中国 1人	・日本語教育 シンポジウム (作文コンテスト)	(・日本語作文コンテスト) ・多文化人材育成推進事業 取組事例 ・総評 ・人材育成推進委員会と N1 対策講座 ・演劇ワークショップで伝える オフィスマナー講座 ・子育ての日本語 ・パネルディスカッション ・「住みよいまちづくりと人づくり」 ・可児市の日本語教育体制整備の取組

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

日本語教育として取り組んだ日本語作文コンテスト(協会自主事業)をシンポジウムの中に織り込む。

各取組の事例報告の後、アドバイザーの見解を報告する形とした。

パネルディスカッションでは、来場者の意見も交えながら、議論していく場とした。



日本語教育シンポジウム：取組の事例報告の様子



日本語教育シンポジウム：パネルディスカッションの様子



日本語教育シンポジウム：来場者の様子

(9) 取組の目標の達成状況・成果：

体制整備として、今年度は、行政、企業、学校関係との関係作りであること、可児市の日本語教育の体制づくりを単年ではなく、来年度、次年度につなげていかなければいけない事業であることは、ご理解いただけたのではないかと感じる。他地域からの聴講者もあり、関心の高さを伺えた。外国人が、私たちに求めること、次年度にどうつなげていくか、考える場となった。

(10) 改善点について：

事業の課題(テーマ)が広域であり、日本語関係者ではない、一般参加の方にとっては、今までの体制がどこで問題があり、日本語教室の体制をどのようにしていくことが望ましいかということが、分からなかったかもしれない。表面的な報告や、議論ではなく、もう少し、掘り下げて、話ができたらよかったのではないか。

日本語教室に関わっている講師や、サポーター、子どもの教育に携わっている人の参加が少ないことこそ、体制整備の課題である。

チラシを配布する時期が遅かった。運営委員会でシンポジウムについて検討する時期が遅いことに原因がある。次年度は、それを見据えて、運営委員会の日程を組み立てたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的：

今回、選んだテーマは、「人材育成」であったが、協会として、取り組むためには、既存の教室で関わった人々の意見を取り入れるというプロセスが不十分であった。

今年度、協会外との関わりを優先したことが原因だったのだろうか。協会が何のために、本事業を行ったのか、狙いや目的が見えてこなかったため、日本語教育シンポジウムの参加率も低かったのだと思われる。また、運営委員や推進委員は、すべて日本人で構成されている。この日本語教育体制を皆さんに受け入れてもらうためにも、委員のメンバーに市役所や日本企業で働いている外国人を入れることによって、多様な考えを取り入れることが

できたのではないだろうか。

(2) 事業目的の達成状況：

人材育成推進委員会で、企業、行政に、地域の日本語教育体制作りとしての取り組みを発信できたこと、それに対して、協力をいただけたことが、今年度の大きな収穫である。関係づくりとしては、一歩前進できたが、そこから具体的に何をしていくかは、次年度にに取り組む予定ではあるが、将来的に事業の中で、安定した雇用につなげていくためには、今年度新たに組み込んだ日本語教室のあり方をまだまだ、見直す必要がある。各取組への集客数が少ないということは、取組自体、知られていないのか、関心がないからなのか。または、必要と感じているのは、主催者側だけなのか。告知方法がよくないのか。「日本語教育体制整備」と位置付けるまでには至らない様々な問題点を改善していかなければならない。

(3) 地域における事業の効果、成果：

地域の実情として、日本語初期クラスや会話クラスは存在するものの、それでは物足りない人、さらに上を目指したい人のクラスはなかった。プライベートレッスンでニーズに応えるものの、その先につなげていく手段がない。現在、地域を支えている企業や行政の中心となる方々が、どれだけ地域の外国人の人材について把握しているのか、相互に地域社会の構成員として、認識しておく必要があるとして、実情を捉えていたが、実際、事業を実施し、感じたことは、外国人が、この事業の日本語教室を受講したから、「人材」として、将来的に安定した雇用につながる“チャンス”があるかもしれないという認識までには、まだ至っていないことである。人材育成のための「講義」「オフィスマナー講座」では、いずれも学習しなければならない内容を受講者に発信できたと思うが、ほんの一部分の外国人であり、その他大勢の外国人には、取組自体の意味が伝わっていない、伝わらなかった。子育ての日本語においても同様、関心の低さが集客数を反映しているのだろうか、事業を進めていく上で、必要な関係機関とは、新たな関係づくりが作れたが、それを体制整備の成果と捉える反面、それをどう教室にフィードバックしていくかが、課題である。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

集客数の低さ。開講した日本語教室や講座は、主催者側だけが、必要だと感じているのだろうか。外国人は、関心が低いのか、必要ないと感じているのか、受講者が少なかった。協会で人材育成推進事業を掲げても、本事業で取り組んでいる内容を、他の日本語教室の講師やサポーターへ知れ渡らない。日本語教室の位置づけを 地域→協会→事業→日本語教室という全体像で捉える認識の低さからなのか、本事業プログラムである「日本語教育体制整備」までには、至れなかった。コーディネーターの役割、コーディネーターの存在意義を理解しているかどうか、見えてこない。

ii 今後の課題

日本語教室のありかたについて、もっと検証する必要がある。内容は、受講者のニーズに合っているものか、どうして、集客しないのか、原因を追求し、取組実施期間内で、改善していかなければならない。外国人にとっての日本語教育＝人材育成であること。また、それを育成する指導者の人材育成である“人材育成推進事業”であることを、もっと前面に出し、地域全体で事業の取り組みを理解してもらい、だから、この日本語教室は必要なんだと、フィードバックできるような体制を作っていかなければならない。それをどういう形で、アピールしていくのか。体制整備として、関係作りを目指したが、それ以前に、日本語教室がきちんと成り立ち、外国人が人材として、育成され、またそれを指導する指導者の人材育成が必要であることが、地域社会に結び付くのだということを、日本語教育関係者、外国人にも発信し続けていかなければいけない。

iii 今後の活動予定

実際、外国人が、就職につながるように、人材育成推進委員会で、作った関係を生かし、職場体験の機会を設ける。

一般的な日本語教育のテキストを開いた日本語教室ではなく、地域で必要な人材となる日本語を学べるような体験型日本語教室を開講し、生きた日本語の習得を目指す。

子育ての日本語に関しては、実際、問題が起きていなければ、関心がなく、特定のテーマについて学習しようと思わない母親が多いことが分かった。その結果を踏まえ、最終的に一人でも、地域社会に参入できるような導きができるような活動をしていく予定である。

(5) その他参考資料

各種添付します。

地域日本語教育実践プログラム(B)可児市多文化人材育成推進事業



子育てに必要な日本語



子育て中に出てくる日本語はさまざま！子どもの成長に合わせて関わる社会も変化します。各分野の先生にお話を聞きますので子どもとの向き合い方、育て方にもアドバイスもらえますよ。託児つきなので集中して参加していただけます。

【講義 + 日本語教室（復習） スタイル】

時間：10:00～12:00

講義	講師	日程
① 講義：お医者さんが知りたいこと	平田 亮 院長 (ひまわりファミリークリニック)	11月23日 (金祝日)
② 日本語教室：病院のことば	多文化共生育児サークル Earth Babies	11月29日(木)
③ 講義：幼稚園・保育園での生活	保育園 園長先生	12月13日(木)
④ 日本語教室：園のことば	多文化共生育児サークル Earth Babies	12月20日(木)
⑤ 講義：子どもの成長・ことばの発達	田口由美子 先生 (こども発達支援センターくれよん)	1月17日(木)
⑥ 日本語教室：こどもにつかうことば	多文化共生育児サークル Earth Babies	1月24日(木)
⑦ 講義：外国人の子どもの教育における課題	松本 一子 (愛知淑徳大学 非常勤講師)	2月2日(土)

会 場：可児市多文化共生センターフレビア研修室

定 員：15名（託児あり：要事前予約）

受講料：無料

申 込：必要（11月16日締切）講義は日本人も受付します



【申込み・問い合わせ】

NPO 法人可児市国際交流協会（可児市多文化共生センター フレビア内）

可児市下恵土1185-7 TEL 0574-60-1200

E-mail npokiea@ma.ck.ne.jp / <http://www.wctk.ne.jp/~frevia>



演劇で学ぶビジネス・マナー

Let's learn business manners through drama !

Vamos aprender as maneiras empresariais através da representação!

「多文化共生プロジェクト」の出演者が立ち上げた演劇ワークショップ・ユニット MICHl が、外国人に向けてわかりやすくビジネス・マナーをお教えます。異文化理解の機会として、日本人の参加者も歓迎します！

テーマ Theme Tema	Date
1. ・社会人としてのマナー ・ Manner as a member of society ・ Regras de convívio dentro da sociedade	10/28 (日) (SUN) (Dom)
2. ・職場でのルール ・ Rules at work place ・ Regras no local de trabalho	11/4 (日) (SUN) (Dom)
3. ・話し方とふるまい (接客、お宅訪問) ・ How to behave at having guests, visiting home ・ Comportamento diante dos clientes e ao receber visita em casa	11/18 (日) (SUN) (Dom)
4. ・ビジネス電話の対応 ・ Telephone answering at business occasion ・ Atendimento telefônico dentro de uma empresa.	11/25 (日) (SUN) (Dom)
5. ・就職に向けて (面接の受け方等) ・ Steps to employment (how to prepare for a job interview ・ Maneiras de procurar um emprego (	12/2 (日) (SUN) (Dom)



- ◇ 内容は、変更する場合があります。
- ◇ Lesson theme might be changed without notice.
- ◇ Os temas poderão sofrer alterações.

★時 間：10 時～12 時 (Time : 10am-12pm Horário : 10h às 12h)

★会 場：可児市多文化共生センターフレビア研修室 FREVIA

★受講料：無料 Fee : FREE Participação:- Gratuita

新メンバー募集！！

Recruitment of new members !! Recrutamento de novos integrantes !!



演劇ワークショップ・ユニット MICHl では、多国籍の新メンバーを募集しています。演劇の好きな方は、ぜひ参加して下さい！

If you like acting, join our multicultural theater group MICHl!

Se você gosta de representar, venha e participe do grupo multicultural de teatro MICHl!

【申込み Inquiry Inscrições】可児市多文化共生センター FREVIA

TEL(0574)60-1200 E-mail npokiea@ma.ctl.ne.jp

日本語教育シンポジウム

取り組みからみる地域の日本語教室のあり方と地域での体制づくり

日 時

2013年3月16日(土)
13:00~17:00
(12:30受付)

場 所

多文化共生センター フレビア
可児市下恵土1185-7
(可児駅うら)

プログラム

13:00~13:30

第Ⅰ部 日本語作文コンテスト

テーマ:「大切な人・大切なもの・大切なこと」

小学生・学生・一般部門 優秀賞3名 奨励賞10名 選出
第一次審査を通過した13名が作文を朗読

13:40~14:40

第Ⅱ部 多文化人材育成推進事業 取り組み事例

進行:小島祥美(愛知淑徳大学 准教授)

総評:米勢治子(東海日本語ネットワーク 副代表)

〈1〉人材育成推進会議とN1対策講座

近藤利恵(NPO法人可児市国際交流協会 事務局次長)

〈2〉演劇ワークショップで伝えるオフィスマナー

田室寿見子(多文化共生演劇ユニットMICHI コーディネーター)

ヒグト ヴァネッサ(多文化共生演劇ユニットMICHI 代表)

〈3〉子育ての日本語

池辺恭子(多文化共生育児サークルEarth Babies 代表)

14:45~15:45

第Ⅲ部 シンポジウム

「住みよいまちづくりと人づくり」
～可児市の日本語教育体制整備の取り組み～

進行:小島祥美(愛知淑徳大学 准教授)

パネリスト

豊島正治(岐阜県可児市工業団地管理センター 副理事長)

岡田明文(可児市商工会議所青年部)

坪内豊(可児市役所地域振興課 課長)

周雨てい(オフィスマナー講座 受講者)

ヒグトヴァネッサ(オフィスマナー講義 受講者)

各務眞弓(NPO法人可児市国際交流協会 事務局長)

16:00~17:00

第Ⅳ部 交流会 及び 作文コンテスト表彰式

多民族の料理をご用意いたします。賞味しながら、交流を図ります。

当日フレビアカフェ実施:フィリピンのアドボランチをご賞味いただけます(有料)。 託児あり:要 事前申し込み

申し込み・問い合わせ先:NPO法人可児市国際交流協会事務局 TEL 0574-60-1200 FAX 0574-60-1230
Email: npokiea@ma.ctk.ne.jp

*裏面申し込み用紙あり